

IASAI 新時代にエール

中京大学名誉教授・IASAI 名誉研究員
(同) YYC ソリューション代表
理研客員研究員
興水 大和



DX に準えて CX (Corona Transformation) 時代とも呼ばれるアフターコロナ時代がそこにきている。コロナ禍は、文字通り“禍 (わざわい)”であるがそう愚痴っているばかりでは埒が明かない。例えば、止むにやまれず練り上げた今時の DX 技術・オンライン会議インフラ技術は、コロナ終息をみてもこの利便性を人類は絶対に手放さないだろう。AI 技術はこんな時代変容に応えなければならない。また時代を席卷する DL 技術・AI 技術は、産業現場で地に足を付けた実問題へのチャレンジとその本当の盛り上がりはこれからであろう。よって、この CX をも支えなければならない DX 技術のど真ん中時代にあって、AI 研究の拠点 COE としての IASAI は何をしたらよいかと躊躇している選択肢はない。この時代に向けて問題提起の発信役も課題ソリューションの牽引役も是非に担って頂きたいと願っています。これは、一 OB としての陰ながらの期待である。

折も折、IASAI は 2018 年に大学附置となり先端共同研究機構に組み入れられるご発展をみて、今はその第二期を走り始めておられるとお聞きしている。しくみが成熟し落ち着いた今は、コロナ禍などをサラリと抜け出して頂いて、人心も心機一転の船出を整えておられるその時なのかと想像している。

IASAI はその誕生から 2015 年に四半世紀を経たほどに、長い歴史を重ねてこられたミドルエージの働き盛りなのでしょう。草創期からの多くの経験と実績に事欠くことはないでしょう。そこで育まれた所員のポテンシャルも連帯性も半端ないでしょう。工学部をはじめとする研究・教育現場からのボトムアップ力と強靱な IASAI 個性のアピール力を基盤にすえて、大いに突っ走って頂きたくひとことエールをお贈り申し上げる次第です。

+++

そのために、“温故知新”とでもいうのであろうか、多くの IASAI の皆さんにとって古き歴史の片鱗ほどにしか映らないかもしれませんが、下記の URL をワンタップして頂きたいと切に願う次第です。この先を模索するうえで何か手掛かりのような“知新”があるかもしれないからである。

2015 年 中京大学理工系四半世紀記念号 URL

<https://www.chukyo-u.ac.jp/educate/gse/img/IASAIHP.pdf>

<https://www.iasai.chukyo-u.ac.jp/old/25anniversary/>

2017 年 福村晃夫先生追悼号 URL

https://www.iasai.chukyo-u.ac.jp/pdf/iasai_news40.pdf 2018 年

2018 年 巻頭言「AI 潮目と IASAI 節目」 URL

https://www.iasai.chukyo-u.ac.jp/pdf/iasai_news42.pdf

*興水大和氏は 2020 年度 11 月より IASAI 名誉研究員としてご就任頂いております。

+++

補遺、というか蛇足です。ご無沙汰つづきのおわびにかえて、近況報告をひとこと加筆させていただきます。

このところ IASAI 殿からは一方的にお心遣いを戴いてまいりました。嬉しく思っております。名誉研究員と呼んでいただいたり、特任研究員にして頂いたりである。まさにそのおかげにて、画像検査研究や画像符号化研究、画像処理技術基礎研究などにて、貴研究所の気鋭の皆様との学术交流を続けさせて戴いております。それらを糧にして、IT系技術コンサルの手習い事をして、ゼミ活動社会実装的なトライを楽しんでいます。また学会活動もボチボチと続けて顧問とか理事とかで緩めな刺激を戴いて、ボケ防止の便にもなったらいいなと欲張っています。

これからもよろしくお願い致します。

(以上)

+++